

ステラナビゲータ

for Windows 95
+ Meade LX200
望遠鏡コントロールガイド

ステラナビゲータを使うと、パソコンに接続された天体望遠鏡をコントロールして、ディスプレイ上でクリックした天体を『自動導入』(その天体に望遠鏡を向けること)ができます。

自動導入は、星図を参照しながら天体を導入するのに比べて、とてもかんたんですから、初心者でも短い時間でたくさんの天体を見ることができます。

望遠鏡に付属しているコントローラでも自動導入はできますが、観測したい天体の「NGC番号」や「メシエ番号」を知らなければ導入できません。ステラナビゲータなら、画面で見たい天体をクリックして選ぶだけで自動導入できるので、観測の効率が格段に向上します。

ステラナビゲータのバージョンの確認

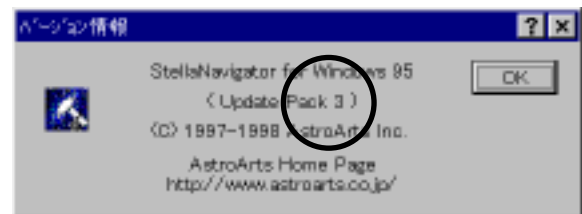
ステラナビゲータの[ヘルプ]メニューで[ステラナビゲータについて]を実行して、『Update Pack 3』以降でなければ、ステラナビゲータ専用の『アップデートパック3』以降を使って、最新バージョンにアップデートしてください。最新の『アップデートパック』はインターネットや望遠鏡ショップなどで入手できます。

インターネットアドレス

<http://www.astroarts.co.jp/>
(アストロアーツホームページ)

上記へアクセスして、サポートコーナーを参照してください。

ここでいったんステラナビゲータを終了します。



セットアップ

はじめに、望遠鏡コントロールモジュールのセットアップを行ないます。

必ず、ステラナビゲータが終了していることを確認した上で、セットアップを行なってください。

『LX200コントロール・セットアップディスク』をドライブにセットします。次にマイコンピュータからフロッピーディスクを開き、ディスク内のMdecds.exe(またはMdecds)をダブルクリックしてしてください。インストーラが起動されたら、あとは表示されるメッセージに従ってセットアップを行なってください。

望遠鏡コントロールの準備

では望遠鏡コントロールの準備をはじめましょう。

天体望遠鏡の設置

天体を自動導入するには、まず天体望遠鏡が正確に設置されていなければなりません。

そのために「基準星の導入」という作業を行ないます。

基準星の導入の手順は、天体望遠鏡の操作説明書に明記されていますので、そちらを参照しながら望遠鏡の設置を行なってください。

1 天体望遠鏡を設置する

2 基準星を導入する

基準星を導入するとき、ステラナビゲータで現在の星空を表示しておく、基準星を見つけるのに便利です。また、自動導入するためには、基準星を2つ導入することをお奨めします。

天体望遠鏡とパソコンを接続する

RS-232Cケーブルを使って、天体望遠鏡とパソコンを接続します。

接続方法の詳細については、天体望遠鏡やコントローラの説明書にしてください。

RS-232Cケーブルについては、ご使用のパソコンの機種を確認した上で、望遠鏡メーカーから販売されている専用ケーブルをお使いください。

ステラナビゲータの準備

ここからはパソコンでステラナビゲータを操作します。

なお、コンピュータの時刻はあらかじめ秒単位で合わせておいてください。

1 観測場所を設定する

[表示]メニューで[場所]を実行し、観測場所を設定します。

観測場所の経度・緯度をできる限り正確に設定してください。

2 リアルタイムアニメーションを実行する

[アニメーション]メニューから[設定]を実行する

[アニメーションの設定]ダイアログが表示されます。

[内部時計でリアルタイム]を選択する

[アニメーション実行]ボタンをクリックする

ステラナビゲータに現在の星図がリアルタイム

(コンピュータの時刻)で表示されます。



3 [ツール]メニューの[望遠鏡コントロール]を実行する

[望遠鏡の設定]ダイアログが表示されます。

[望遠鏡コントローラ]で[MDECDS.DLL]を選択する

[ポート]を選択する(いちど設定すれば記憶されます)

[コントローラ表示]チェックボックスをオンにする(1)

[現在位置表示]チェックボックスをオンにする

4 [接続]ボタンをクリックする

接続が完了すると、ダイアログの左下に「~が接続されています」とメッセージが表示されます。



5 [日時・場所送信]ボタンをクリックする

現在、ステラナビゲータに設定されている日時と観測場所の情報が、望遠鏡に送信されます。

6 [閉じる]ボタンをクリックする

ダイアログが閉じ、代わりにコントローラ(次ページ参照)が表示されます。

星図の中で、望遠鏡の現在位置が赤い望遠鏡マークで表示されているのを確認してください(2)。

1 [コントローラ表示]は天体の自動導入のみをする場合はオフでもかまいません。微動調整や同期機能を多用される場合はオンを推奨します。

2 [現在位置表示]がオフになっているときは、赤い望遠鏡マークは表示されません。また、望遠鏡が地平線より下を向いているときは、星図に表示されません。

3 [画面外の引き戻し]をオンにしておくと、望遠鏡マークが表示されない方向の星図を表示できなくなるので、星図の視野をひんばんに変える場合は[画面外の引き戻し]をオフにしておくことを推奨します。

天体を自動導入する


望遠鏡コントロールの準備が完了したら、実際にステラナビゲータで、天体を導入してみましょう。天体の自動導入は、マウスだけで操作できます。

星図で選択した天体を自動導入する

天体の導入は次のようにします。

- 1 自動導入したい天体をクリックする

天体情報パレットが開き、その天体の名前などが表示されます。

- 2  (望遠鏡) ボタンをクリックする。またはコントローラの [GOTO] ボタンをクリックする

天体望遠鏡がコントロールされ、天体が自動導入されます。

コントローラの [GOTO] ボタンをクリックしたときは、天体情報パレットに表示されている赤経赤緯に自動導入されます。もし天体情報パレットが閉じている場合は、最後に表示された赤経赤緯に自動導入されます。

望遠鏡が動いているときに、コントローラの [STOP] ボタンを押すと、緊急停止できます。



視野の中心と天体がズレていたら、SYNC (同期) 調整する

最初の望遠鏡の基準星の導入だけでは、自動導入にズレが出ることがあります。天体を自動導入したときに、その天体が視野の中心に自動導入できていないときは、SYNC (同期) 機能で、位置を合わせます。上記の手順で天体を導入したあと、天体情報パレットが表示されたままの状態、次の手順に進みます。

- 1 コントローラの [E][W][S][N] ボタン、またはハンドコントローラで、目的の天体が視野の中心に来るようにする

このとき、画面の星図の中で、目的の天体と赤い望遠鏡マークがずれて表示されます。

- 2 コントローラの [SYNC] ボタンをクリックする

画面の星図の中で、目的の天体と望遠鏡マークが一致します。

コントローラのボタンについて

画面に表示されるコントローラは、望遠鏡のハンドコントローラと同じように動作します。

[GOTO] : 選択された天体を自動導入

[SYNC] : 同期調整に使います

[SLEW] : 方向キーの速度を対恒星時1920倍 (秒速8度速度) に変更

[FIND] : 対恒星時480倍 (秒速2度速度) [CNTR] : 対恒星時32倍

[GUIDE] : 対恒星時2倍 [STOP] : 導入を停止

[N][S][E][W] : 方向キー。微動調整に使います



コントローラ

いちど閉じたコントローラを再び表示するには

画面に表示しておいたコントローラを閉じてしまったときは、次の手順でコントローラを表示してください。

- 1 [ツール]メニューの [望遠鏡コントロール] を実行する
[コントローラ表示] がオンになっていることを確認します
- 2 [閉じる] ボタンをクリックする

望遠鏡コントロールの終了

望遠鏡との接続を切断するには、[ツール]メニューの [望遠鏡コントロール] を実行して、[望遠鏡の設定] ダイアログで [切断] ボタンをクリックします。

または、この操作をしないで、そのままステラナビゲータを終了してもかまいません。

その後、望遠鏡の電源を切ります。

応用操作

ステラナビゲータの望遠鏡コントロールは、次のような使い方ができます。

どんな天体でも自動導入できる ガリレオ衛星も自動導入できる

ステラナビゲータなら、画面に表示されている天体なら、どんな天体でも選択して、望遠鏡を導入することができます。

たとえば、ガリレオ衛星を自動導入したい場合には、星図を拡大してガリレオ衛星を表示させ、それをクリックして、天体情報パレットで望遠鏡ボタンをクリックすれば導入できます。


彗星などの天体も自動導入できる 最新軌道要素はインターネットで

新たに出現した彗星や小惑星などの天体の軌道要素データを、インターネットで配信しています。

<http://www.astroarts.co.jp/> へアクセスして、サポートコーナーで「最新軌道要素」をダウンロードするか、または自動的にインターネットに接続して軌道要素を更新する「軌道要素更新モジュール」をお使いください。詳しくは上記アドレスのサポートコーナーへ。

視野円・写野角の中心に導入する

天体写真を撮影するときは、天体望遠鏡の中央に天体を導入するのではなく、2天体の間など特定の天体がない方向へ向けたい場合があります。ステラナビゲータでは、星図に視野円や写野角を表示していれば、その中心方向へ望遠鏡を向けることができます。

- 1 「表示」メニューの「経緯線・視野円」で視野円や写野角を表示させる
- 2 視野円あるいは写野角を導入したい位置までドラッグする
中心の×マークをドラッグすると、視野円や写野角が移動します。
- 3 視野円あるいは写野角の×マークをクリックする
天体情報パレットに、視野円や写野角の中心の座標が表示されます。
- 4 天体情報パレットの  (望遠鏡) ボタンをクリックする。またはコントローラの [GOTO] ボタンをクリックする
これで、視野円や写野角の中心方向へ天体望遠鏡が導入されます。
写野角の回転には対応していません。アングルの変更は、望遠鏡に取り付けたカメラを回転させてください。

月のクレーターも自動導入できる

月のクレーターなどに自動導入したいときは、そこに視野円や写野角の中心を合わせて、視野円や写野角の中心に自動導入してください。

トラブルのときは

接続に失敗したときは COMポートを確認

望遠鏡と接続できない場合には、RS-232Cケーブルを接続しているパソコンのCOMポートを確認してください。

[望遠鏡の設定] ダイアログでCOMポートをCOM1からCOM2へ切り替えてみたり、またはWindowsのコントロールパネルで『システム』を開き、『デバイスマネージャ』でCOMポートを選択し、情報や設定を確認します。

お問い合わせ先

望遠鏡コントロールに関するご質問は、弊社ユーザーサポート係へお問い合わせください。

株式会社アストローツ 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-9-5 北村ハイツ1F
Tel : 03-5350-0691 Fax : 03-5350-0695
ホームページ : <http://www.astroarts.co.jp/> Eメール : support@astroarts.co.jp